

## 大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）中間評価結果

大 学 名	東京工業大学
整 理 番 号	A-①-2
事 業 名	日中韓先進科学技術大学教育環高度化プログラム

### 大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;">                     本プログラムは、平成23年度から5年間進めてきた本事業のキャンパス・アジアパイロットプログラムの取組や成果を踏まえ、世界最高の理工系総合大学の実現という長期的国際戦略の下で構想され実施されている。                 </p> <p>                     中国・韓国のみならず、シンガポールなどアジアの大学や欧米の大学との連携を進め、他大学の学生の参加を可能とするよう体制を整備するとともに、派遣・受入の双方の大学の教員が留学の前後に学生の活動内容を精査するための修学計画書を活用するなど、質保証を伴う取組を適切に実施している。特に、留学生受入のための在籍管理やアドバイザー制度、チューター制度等の組織的な支援体制の拡充と強化を進めており、語学力や交流学生の数値目標も達成している点は評価できる。                 </p> <p>                     一方で、ダブル・ディグリーなど共同学位に関しては、2国間での合意形成に一定の成果は見られるものの、学生が参加しやすい環境整備等が求められる。また、21世紀型スキル教育に向けた取組は、教職員を含め展開しており評価できるが、今後は21世紀型スキルの定義、評価のための指標や手法について、3大学間で合意を深化させていくことが望まれる。加えて、研究重視型教育についても、現状では2大学間の研究中心の短期滞在型共同教育が中心となっていることから、3国間で新たな授業や研究プロジェクトを共同で開発することや、日本人学生の長期留学への参加を促進していくこと等が課題として挙げられる。研究重視型教育の促進、共同学位の拡充、21世紀型スキル教育の確立など、高い目標の実現に向けて更なる尽力を期待したい。                 </p> <p>                     最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と将来の我が国の更なる発展に向け、積極的に事業を展開していくことが期待される。                 </p>	